

副本



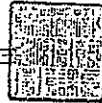
乙第 5 号証 2

録音反訳報告書

平成26年 11月 17日

東京地方裁判所民事第32部1A係御中

東京都板橋区資源環境部
環境課長事務取扱資源環境部参事
井上正三



下記のとおり高久秀雄氏から聴取した内容の録音データを、別紙のとおり反訳したので、ご報告いたします。

記

- 1 聴取日 平成25年8月29日
- 2 聴取者 板橋区資源環境部環境課長 井上正三
同部環境課管理係長 三浦亘
- 3 聴取場所 板橋区立高島平地域センター会議室

高久秀雄 (第2回目)	
日時 H25.8.29 於: 高島平地域センター会議室	
課長	で、今日は8月29日で、この間来ていただいたときにですね(えー)私、高久さんに話聞いて(えー)私のあくまでも心証ですけど(はい)高久さんはムシ企画の代表として主張しますか?そこら辺を一番まず
高久	そうですねー
課長	いや、そうですねでっていうか・・・
高久	えー・・・とりあえず・・・
課長	いや、とりあえずなんじゃなくて(えー)・・・要するに代表っていうのは、実態はどうかあれですけど、(えーえー)代表となれば、今後私も報告書を書かなきゃ、書く必要がでてきて、代表は(えー)高久なになにであると(えー)そーすると、今後高久さんが、話、我々といろいろ話進めていく中で、(えー)もしその我々が想定する仕事の、まあ全部やってもらってればいいですけど、どうもこの間聞いてると幾つかやってない仕事があるじゃないですか、あの仕様書に含まれた仕事を、ね、まあ今後確認しますが、(えーえー)そーすると、(えーえー)その仕事が、(えーえー)やってない、仕様書の中にあるね、(えーえー)仕事を(えー)まあ高久さんっていうま・・・むし企画として、(えーえー)やってないとなると、(えーえー)ここに書いてある内容がね、(えーえー)それについては、もしかしたらね、まあはっきり言えば、まあお金返してくれて言うことになるかもしれない。
高久	えーえー、だからこの間もお話したように、とりあえず一ほら一あの阿部さんの指示に従って、(うん)あの一動いていたわけですよ。
課長	いや、阿部さんの指示っていうのは、(えーえー)仕事っていうのよりは(えーえー)むし企画の代表として、(えーえー)仕事をしていたのか、それともむし企画は阿部さんなのかさ、そうなるちょっと私分からなくなる、どっちなんですか?(えーえー分かります)
高久	ですから、とりあえずこの間も話したように、(うん)そのままの形で引き継いだだけのものですから、だから仕事に関しては、(うん)あの一全部把握してた訳でないんで
課長	うん、そこはね、私も分かってんですよ、だから、小船さんがやった当時、(えー)まあ5人いて、(えー)5人誰か分からないけど言われた通り引き継いだ。(えー)そうすると、さっ・・・、一番大事な所は、むし企画の要するに代表なのか、(えー)まあ俗にゆう名義貸しでね、(えー)別に代表が、代表らしき人がいたのかさ、(えー)そこをね、ちゃんとしないとね、(えー)話が進まない。(えー)だからそこはね(えー)まああの高久さんとしては言いづらいかもしんないけど・・・。
高久	ですからさっき言ってたさあ、さっきもこの間も言ったように、あくまでもほら一、あの小船さんがやった通りの形で(うん)引き継いだ訳ですよ。

136 井上正三

課長	それはもう、それはもう何回もこの間も聞いています。と言うことは、(えー) 小船さんがやってた通り引き継いだと言うことは、(えー) 代表なの？(はい?) 代表として引き継いだの？
高久	ですから契約な訳ですから、(じゃあ) そういう形になるんだと思うんですけど。(いや) 契約上は。
課長	契約上はでしょ？(えー) 実質的にもそうなのかどうか。話を聞くと、(えー) 職員の名前を知らないとか、(えー) 勤務体制とかそういうの全然分かんない訳じゃないですか、(えー) そうなるとそれがはたして代表と言えるっていうと、(えー) 私の感覚からすると、(えー) 別に、(えー) 名義貸しみたいな形で、(えー) 今は断定しないでしょ？(はい) 名義貸しみたいな形で、(えー) 高久さんが名義を貸して、(えー) こうゆうむし企画の高久としてハンコを押して契約したけど、実はいろいろ指示をしたりする人は、(えー) 実質的代表者なり責任者が別にいるんじゃないか、というのが私の印象です。どうですか？
高久	だから～それは～さっきもこの間も言ったように、あの～それでいいと思ってやろうとした訳ですから。
課長	いや、だから、そうではなくて(えー) だからそこじゃなくて、それでもいいって言うのはさ、(えー) じゃああの代表でいいんですね？
高久	そういうことになるでしょうね。
課長	いいんですね？じゃあそれは、私は他に代表者がいて、実質的な代表者がいて取り仕切っているようにしか聞こえなかった。(えーえー) 今でもそう言うように聞こえる。(えー) だって実態が分かんない代表者なんていないじゃないですか？(えー) 普通は。
高久	えー、だから、実質的に一私が言っているように、その～あの～、仕事に関してはこれでいいって形で、(うん) 受けたもんですから。
課長	じゃあ分かった。受けたんだったら(えー)、その、受けるように言ったのは誰です？
高久	だから阿部さんですよ。
課長	と言うことは、(えー) 阿部さんから、「お前は黙、黙、いいからこういうふうな仕事を受ければいいんだ」と？
高久	だから、こういう形で言うことでつことで、(うん) じゃあ引き継ぎっていう形で契約がありました。
課長	分かりました。そうすると、(えー) 今の印象を聞く限りは、(えー) 阿部さんの指示を受けて、むし企画の代表として、ま、よくわからなかったけど、(えーえー) とりあえずは、(えー) 書類上は(えー) 何かハンコを押しちゃったなど、(えー) そんな感じかな？
高久	そーですよ
課長	分かりました。と言うことは・・・
高久	今の現在の状態で

課長	そうそう、そうすると(えー) 書類上は、(えー) むし企画高久が代表になってるけども、(えー) 実質的には阿部さんから指示を受けてやってるけども、(えー) そうですよ)、現状では、(えー) まあ言いづらいけど(えー) 阿部さんが実質的な代表者かな？
高久	いや～それは分かんないです。
課長	分かんない、じゃあ誰が代表者なの？
高久	それは分かんないです。
課長	いやいや、すみません。分かんないなんて言うのは(えー) 言えなくて、(えー) 何故私こんなこと言うかって言うかね、(えー) こころ辺って言うのは今後、(えー) もしですよ？(えー) そこにあるけども、もしそこが動き出したらですよ、(えー) これ仮定、(えー) 高久さんが(えー) 一番責められるのか、(えー) もう一人方々質的、実質的な代表者がいてね(えー) 責められるのかというこれ大きな分かれ道なんです。よ。(えーえー)。で、私ねえ、あんまり言ってないけど、昔ね、脱税の調査をやったの。(えー) で、警察の逮捕にも立ち会ったりね(えー) 言ってないけど、取り調べ室にも入ったし、(えー) 警視庁の取り調べ室にも入ったし、(えー) いろいろ経験してるとね、(えー) 最初ってみんな本当のことは言わないんだ、(えー) ただ、自分に事が及んでくると、実はこうでした。(えー) ってことになるんだけど、どうも今その事態かなと思ってさあ。
高久	だから何回も言っているように、ね、そのまんまの形で(分かる分かる)引き継いだ話であって～
課長	あれ、そしたらさあー、私があ、
高久	だから、小船さんがダメになっちゃったからー、ね、じゃあ高久さんやってよって話で、契約してる訳よ。
課長	だからさ、たださ、書類上はこうなっちゃってるけど知らない人はさ高久さんが代表者だと思っちゃうわけじゃないですか？ところが、高久さんは冷静に考えるとさ、言われてハンコを押しちゃったけど、(だからこの間も言ったように・・・) 困っちゃってんだよね
高久	だからこの間も言ったようにこういう話になるんなら、(なんなかった) なんなかったよっ！って言ったでしょ～よ
課長	じゃあ、認めんね？阿部さんが代表者でいい？
高久	それは分かんないですけどね、
課長	じゃあ、自分が代表者って名乗る？
高久	いやいやそうじゃなくて、僕はほら阿部さんの指示で・・・
課長	あ、そっか、阿部さんの指示でやったけども、(えー) 阿部さんかどうか知らないけど誰か別にいると。
高久	の、可能性もありますしね。
課長	いや、可能性っていうかさ、自分は代表者ではないんでしょ？(えー) 代表者ってまず認める？代表者であるとまだ・・・(代表者・・・) じゃない、・・・

高久	代表者って言うよりも一だから、ハンコ押したのは私だけどー、
課長	分かる分かる、あの、もうね、分かりやすく言う。ハンコ押してた、(えー) これはこれでいい(えー) 要は、名義貸しみたいに見えるけれど、(えー) 実質的な責任者は阿部さんかもしれないし、(えー) 他に誰がいるかもしれないと、(えー) 思ってるね？(えー) おっ！ありがと、(どしてですか?) いや、ここ、ここ重要なんですよ、そうすつとねー、俺高久さんをねー、あまり責めないで済む
高久	えーえー、だって何回も言ってるように、(わかる分かる)ねー？これ、これですってことで、(よく分かった)やったことなんで(そーだよ)それ以上のことは、この間も言ったように、私分かんないですもん。(だから、阿部さんかー)。小船さんもこういう形でずつとやってきた訳ですから。(だから、阿部さんかー誰がいるんだよ)だからそれであたりまえだって言う形で、それで、ね、あの一、お金を運んでた訳ですから(わかった)給料を。(分かりました)あとは(じゃあこれ以上言わない)あの一納品に関しては・・あるんで、それを言われたやつを納めていただけです。
課長	分かりました。じゃあ、これ、いわゆる名義貸しだね？ちょっと考え方によっては、
高久	そ、そういうふうにもなりよ
課長	(笑い) そうだね、そうだねって言ってよ(笑い) 違う？(笑い、そー、そこまで責めないで下さいよ)だから、今言っとならばこれはもう触れないですよ。(えー) 名義貸ししてことを認めていただければ、私はもうこれ以上触れない。そーすつと、聴き方も変わるんですよ。(えーえー) 私さつき言ったじゃないですか、最初から聞いている・・(えー、だけどこれは(契約書)どうなる訳ですか？笑い)これは、別に書いてあったとしても実質的な責任者がいればこの人は罪を問われます。
高久	そんで私の一通帳に入ってきてるわけだから・・
課長	それは、関係ない。だって、自分は自分の取り分はもらってんでしょ？、(はい)自分の取り分貰って、あとは渡しちゃってるんでしょ？それは誰が見たっていっばいもってる人の方が、それは支配者ですよ。(えー) で、仕事だって誰が働いているかも知れないし、何をやってつか分かんない状況だとしたら、書類はこうなっていたとしても実質的にはダミーであって、実質的な責任者は他にいます。これは阿部さんかもしれないし、でも小暮、高、高久さんの立場からすると阿部さんって言えない訳でしょ？(えー) でも阿部さんか誰かいると、(えー) でも誰かなんて言えないよ。私からそりゃ。(えー) いる？いないでしょ？・・まあいいや。じゃあ、だからもう名義貸し認めてくれればそれでいいですよ。いいですね？いいですか？(え) いいですか？・・じゃあそれで行きましょう。無言って言うことはそれでオッケーだ。(笑)首、振った、縦に振ったもんね？。(笑い) それでねー、(えー) そーすつとねもう話が良く分かってきて(うん)、私ね、(うん) このハンコとかさあ、(うん) あるいはさあ、(うん) 水質検査のハンコとか押すって言ったけど、むこうが持ってるんじゃないの？

高久	いや、それは違いますよ。(持つてる?)ええ、こちらは、これは置いてありますよ。(そーでしょ?)これは一実印なんで。
課長	分かった、じゃあ、むしろ企画のこの角印は置いてあんの？(はい)これ、綾部さんが持つてるの？(えー、そー思いますけど。)じゃあ、誰が持つてるのか分からないけど、あそこにおいてある。(えー、と思います)これは実印だもんね。(えー)了解了解
高久	実印ですからそれは預けられないですよ。
課長	そーすると、じゃあこれはホントに自分で押ししてるの？(そーですよ)これはじゃあ押ししてあって、(えー)じゃあ月に1回あの一、お金を持っていくときに(えーえー)押ししていると。(えー)分かりました。
高久	あの一、持ってきてくれということ
課長	あー、(えー)なるほど、(えー)分かりました。すみません、でね、(えー)これからはね、うちの部長がしつこいんだけど、(えー)えーと月10日くらい来てるって言う話ですけど、(えー)どーも来てないんじゃないかと、来てないでしょ？(はい)分かりました。でね、もし来てるなんて言ったらねー、最後はE T Cの明細なんかを出せっていうけど、何日ぐらい出ていた。1日2日
高久	そうですね。
課長	はいわかりました。ありがとう。おれすごううれしい。1日2日
高久	いやーこんなになるんだったら、ほんとうに(おれむしろ被害者だと思う)だったら(今日、大事な事聞いておわっちゃおう)これ以上という形になるんなら私本当に自分を守らないといけない(そうですね)ので、基本的には弁護士さんをお願いしなければならぬ。
課長	相談したほうがいいですよ。ようするに(それしかないですもの)阿部さんからこういうふうにやられていわれて名義貸しみたいな代表になっちゃたけど、なんか、区役所から責められて一応名義貸しは認めただけど、今後はおれどうなるの？みたいな、それ相談した方がいいかもしれない。私の知っている限りは、私もダミーで、あの一、ダミーの人3・4人知っていて本質的・実質的支配者とやっていますけど、ダミーの人は軽いですよ。だってダミーだもの、名義貸しだもんね。1日2日、それでねー1日か2日ぐらだから月に、本当にお金を運んできているの。振込ではない？
高久	いえ違います。運んです。そんときにあれしたりしてみたり、あれしていますから。
課長	綾部さんにいくら渡す？100じゃないと言っているけど、80から90？
高久	だからそれは(いってよ、もういいじゃない)それはだって(綾部さんに聞け)はい
課長	二人で話が合わなかったら困っちゃうじゃない
高久	私はおそらく、名義貸しの取り分として、月に20ぐらいもらっていると思っっている。はずれている？

高久	いやー、全部計算なので(だいたいでもいい)、この間を言ったように、全部合算なんで(合算という店の売り上げと全部いっしょにやっているから、計算していないんで(取り分はいくらぐらい)。取り分はいくらでもないですよ。
課長	1400万円だと月に100~120万円ぐらいでしょ?
高久	けっこうありますよ。いろいろと。
課長	では、持っていく額、いくらかいてよ(はい)90、ちがう?80?(笑い)だいたいそれくらいかなと、今言ったほうがいいよ、だって言えないとなっちゃうと・・・
高久	じゃいますよ、70です(そんな少ないの)ええ、(そんなに少ないと言うか)後でだから、私は思っているほど貰っていないですよ。
課長	70万円渡して、それ以外に買うことある?だからいろんな??ポンプだとかを買うこともある。なんかんだってやつは全部私の方で入れているから、会社の方で仕入れたって形になってますんで、合算してやってるので出してみないと分からない。
課長	いいです、いいです、じゃあ70万円を綾部さんに渡してる。そうすると我々が知っている限りでは2人ぐらいしか働いていないんですよ?
高久	それは、さっきというより、この間も聞いたけど、やっぱり5人いますって、夜勤からなにかから
課長	まあそれは聞きますよ。分からないですよ?それこそ阿部さんの方が知ってますよね。阿部さん何か言っていなかった。(いや別に・笑い)気落ちしていたでしょ。今、本音を聞きたいおけど、えらいのに関わったという気がしません?
高久	だから、それは最初から言ってるでしょ。(ね、いやみんなそうですよ)だって、これでいいからって、小船さんがああいふ状態になったんで、引き継いだだけの話なんで、(分かります、分かります)小船さんがやってもらっていた時のほうが、私は楽でしたよ。
課長	それで、ホテルとはいつごろから関るようになったの?小船さんの知り合いで、仕事をするようになったけど、実際にはホテルといつごろから?
高久	小船さんと一緒に来てもう15年ぐらいになりますか。
課長	むかし、会社がやってたけど小船さんが受けた時からずっとですか?
高久	小船さんが受けてそのぐらいだと思うんですけど。(お茶・・・)
課長	口乾いているんだろうから(渴きますよ)俺もこの間あったの。言ってなかったけど。あるジャーナリストに責められたの。最初すごく責められて、あんとき口が渴いた、同じだなーと思って。口乾いちやって、でも、乗り切ったですよ。
高久	この間、渴きまもん(飲んで)
課長	でも、今、お話ししてもらったほうがいいですよ、私の今の心象は、高久さんにすごい協力して頂いて言う気持ちになった。(だって、用意ドンから言っているように私分からないですよ)こういうふうによれって阿部に指示されちゃったんですよ?

高久	ええ、そうです。それしかないですよ。小船さんの時もそういう形でしたから。
課長	それで口座のことが分かんなかったんですけど、口座が板橋からムシ企画に入るのでしょ、それでワールドに行く、それで一部ホテルに行き、ホテルが70万円ぐらい、こういう流れでいいんですね。板橋から毎月120万円ぐらい行きますね。
高久	はい、そうです。仕入れはここでやっていますので。
課長	ここで買ったということになっているから、製品がこう行くからその分こっちから売上がこう行くと、この分の売上がこう行くと、合算というのはこれが一緒にになっているという意味ですか?
高久	そういうことです。だからこれは結局??契約して申告するときに、こういう訳でこうなってんだけどとあったならば、いっしょくたんで差し支えないからということでした。
課長	そうするとムシ企画の口座もあるし、ワールドフィッシュの口座もあると。ムシ企画、ワールドにお金を動かすことは動かしているんですね。
高久	ええ、それは動かしています。
課長	それでわかったね。今日聞いてよかった。もう聞くこと無くなっちゃった。(まだ、あれですか、来いって)いや、当分ない。ただね、小船さんが仕事を受けた時から、小舟さんのつきあいで、ま、その時は小舟さんが主体的に動いていた。そうすると、正直に聞いちゃうけど、小舟さんも代表者だったのかな?今から思えば。
高久	だから、私と同じような立場でした。(あーなるほどね)私は小船さんからメダカを都合してくれと、ホテルに入れるのに、私の持っている必要な物は私の方から行って、小舟さんに請求しましたんで
課長	そうすると小船さんが阿部さんと話して。小船さんが元気なときはお金を小船さんから預かって持ち込むことはなかった?70万円とか80万円とか?
高久	一緒に来てたりはしました。
課長	その時は小船さんが持っているからなんだろうなと思ってた?
高久	それが、そういう形で小船さん自身が取ってたもので、それがそういう形だと思ってたんで
課長	小船さんがホテルの仕事をやるとき一緒に仕事をやってたんで、お付き合いするようになって、実質的には小船さんがホテルに持って行くお金を見てたから、そういうふうにはやっただと。
高久	それは小船さんから聞いてましたので。
課長	高久さんは自分の仕事の部分で小船さんと付き合ってた。当時はムシ企画は何人ぐらいいるか話もでなかった?
高久	ぜんぜん分かんないです。
課長	そして小船さんが倒れて、ここが重要な・私の推測。倒れたら甥が口座を管理し始めた?小船さんの。
高久	最後はね。(そうでしょ)いや、親戚がすぐ近くに、小舟さんと入魂の甥っ子がいたわけですよ。(甥っこて、今度会えるかな、教えて今度、電話番号)住所とか電

	話は分からない。(連絡方法は) だから、行って、すみませんって、旦那さんは毎日いるので。(甥と言っても年をとっているんだ) だから、定年になって結構あれですね。(じゃあ、今度電話するから甥のこと調べてよ) 行かなければ分からないですよ。(後で電話するから) 埼玉まで行かないと分からない。蓮田まで行かない。(住宅地図があれば分かるかな、送るからここだって教えてもらえば、パソコンあんまりやらない) できない。(だったら蓮田の住宅地図を見て、名前わかる) 分からない。何て言ったけな。(小舟?) いや、だから、甥っこなんだけど、結局、姪が嫁に行ってその人と小船さんが仲良くて、旦那さんもいい人なんで、その人に預けるから、高久さんお願いねということだったんですよ。小船さんから用意ドンは。
課長	最初のころは倒れて意識があった。話すこともできた。
高久	ええ
課長	ムシのことだったのでムシの通帳を
高久	その人に預けてあるから、(甥っというか兄弟か) 甥っ子に預けたてあるから、そこに行ってくださいという小船さんからの指示だった。そしたら途中で甥っこがしゃしゃり出てきて(分かるわかる、俺にもうまい汁をすわせると) そいで、弁護士を入れて後見人になるからということでは止められた。
課長	甥っ子にも少し払ったんですか?
高久	いやいや払ってないです。 そしたら弁護士から連絡があって、私が後見人という形でやりますからということ。(じゃあ、もう一つね、要するに小船さんが倒れて、小船さん自身が俺の通帳は甥に預けてあると、そしたら甥が通帳を管理し始めて) いやいや、管理しない。その人が、あくまでも持っていたんで、それで、止まるから、裁判所に後見人としての手続きに入るから止まりますよって。
課長	後見人になった弁護士は甥が探してきたの?
高久	そういうことです。最初は自分になろうと、いじろうと思ったんじゃないですか。(なんでなれなかった) だからその辺は、なれがあったというよりも動かせることがわかったんじゃないですか。後見人になったから自由にお金を使えないとわかったんじゃないですか。
課長	通帳を預かっているから、小船さんは管理能力がないから後見人になろうとした。ところが、うま味もないし。(じゃないかと俺は思ったんですけど) で、自分で探してきた弁護士を後見人にした? そしたら弁護士と今度は誰が交渉したの? 阿部さん?
高久	いや、板橋区の会計課ですか、最後は。
課長	要は、3 カ月分の入ったやつを高久さんの通帳に振り込むことになったじゃないですか? それは誰が交渉したの?
高久	最後は契約がないわけですよ。だから会計課の人だと思うんですけど、行って弁護士の了解でハンコをもらってきたと思うんですけども。

課長	あーそうかそうか、じゃあ、4、5、6 月は実質的には契約、まー契約 (いや、小船さんの契約なんで) だから、金が振り込まれているから、それは今も高久さんがやっているからということ
高久	弁護士はそれで、オッケーということで了解を得ていることで会計課のほうでもらいにいったと思うんですよね。その辺のことはわからない。こちらの話なんで。だから、実質的には私の方で契約になったのはだいぶ先にいつてからだと思う (8 月からです) そうです。だから、結局その間は、動いてない訳ですよ。
課長	わかりました、じゃあ、他の話を聞かせてください。 ムシ企画のこのハンコは小船さんの時のやつ? (そうです) そうすると通帳のハンコは違うでしょ? 通帳のハンコもこれ使っているの、自分のムシ企画の自分の通帳?
高久	わたしのですか、だから、実印です。
課長	これは形の上で押してあるだけで?
高久	そうだと思うんですけど。
課長	あーそうか、持っていないと言ってたもんね。ムシ企画高久で、通帳は持っているけど実印で通帳は管理している。一応、綾部さんには渡すけど、その後の金のことは一切分かんない? 少しは知っているんじゃない。
高久	分かんないです。(ほんと、全然、知ってそうだな) 知らないです。
課長	綾部さんって、もう 1・2 分で終わります、我々から見るとボランティアって聞いてたんですよ。私は高久さんはハチのことを絶対に知っているって聞いてるんですが
高久	知らないですよ。関係ないですよ私は。
課長	いや、ハチは関係ないけど知ってるなと思ってる。
高久	どうふうなことをですか?
課長	ずっとハチやってるのは知ってた?
高久	だって来れば分かるじゃない。
課長	あそこハチを売ってるでしょ?
高久	知らないです。それは、全然。ホントにそれは知らないですよ。まるっきり。
課長	なんか変だよな? あそこ。ハチやっている (それは分からないです) で、分かりました、もうさ、実質的に仕事をやっていないのなら、草刈りしなくていいかもしれないよ。なんか、今日、無理に仕事をしたんでしょ。(いやーだって、この形でね) わかるわかる (ここであれするんならばいいですよ、はいって) ゆくゆく契約をどうするか、実質的に高久さんが代表者ではなくて別に誰かいると。ただ、それは阿部さんかもしれないし、他の人かもしれないし、それは今のところ自分からは言えないと言うことでよろしいですよ? (はい) だから名義貸しは、まあいいこと・・・
高久	名義貸しって言うんだか、なんだかわかんないですよ、こういうものは
課長	そうですね。でも名義貸しになりますよ。実質的に、自分がこんなことに巻き

	込まれるなんて思わなかったと。
高久	だって、何回も言うように、小舟さんの時からこういう形でやってきているんで、当たり前と・・
課長	分かりました。何か聞くこと有る。(いや、大丈夫) いい、すみませんね。最初、せめっちゃってごめんなさい。(いえいえ)
高久	だから、今、さっき言われたように、私も弁護士探してあれしなさいよと言われてるようにそうします。
課長	あの、そうじゃないと、一般論からすると、私の脱税をやっていた時の経験からすると、結局、最後、丸裸にされるね。あの、裸っていう意味じゃなくて、全てがわかっちゃいますよ。警察がもし入ると、入るかどうかわからないが、もしそういうことになれば、強制捜査だってあるし、そうするとすべて持っていかれるし、有る資料から、過去の友人関係から始まって、学歴、どこでどう繋がったとか、そういうのがすべてわかっちゃうから、だとしたら、最初から話したほうがよっぽどいいですよ。
高久	かくすよりいいもんね
課長	だって、印象いいもんね。思いません。最後に一回聞く。代表者誰だと思ふ。言ったほうがいいんじゃない。
高久	だから、言っているように、それは分からないですよ。私は、阿部さんの指示に従っているだけで
課長	じゃあ、それは阿部さんと思っているね、思ってるんでしょ(でそれだけの話であって) まあ今は明確に言えないよね。でも、そういう印象を持っている、阿部さんの指示に従っているだけだもんね、指示する人がトップだよな?それは、一般的にそうだよな。指示する人がトップだよな。
高久	(シグナル)
課長	御免! えーそれ以上は言えないという、御免というサインができましたのでこれで終わります。すみません、年上のひとに失礼なことをいって。(00:29:45)